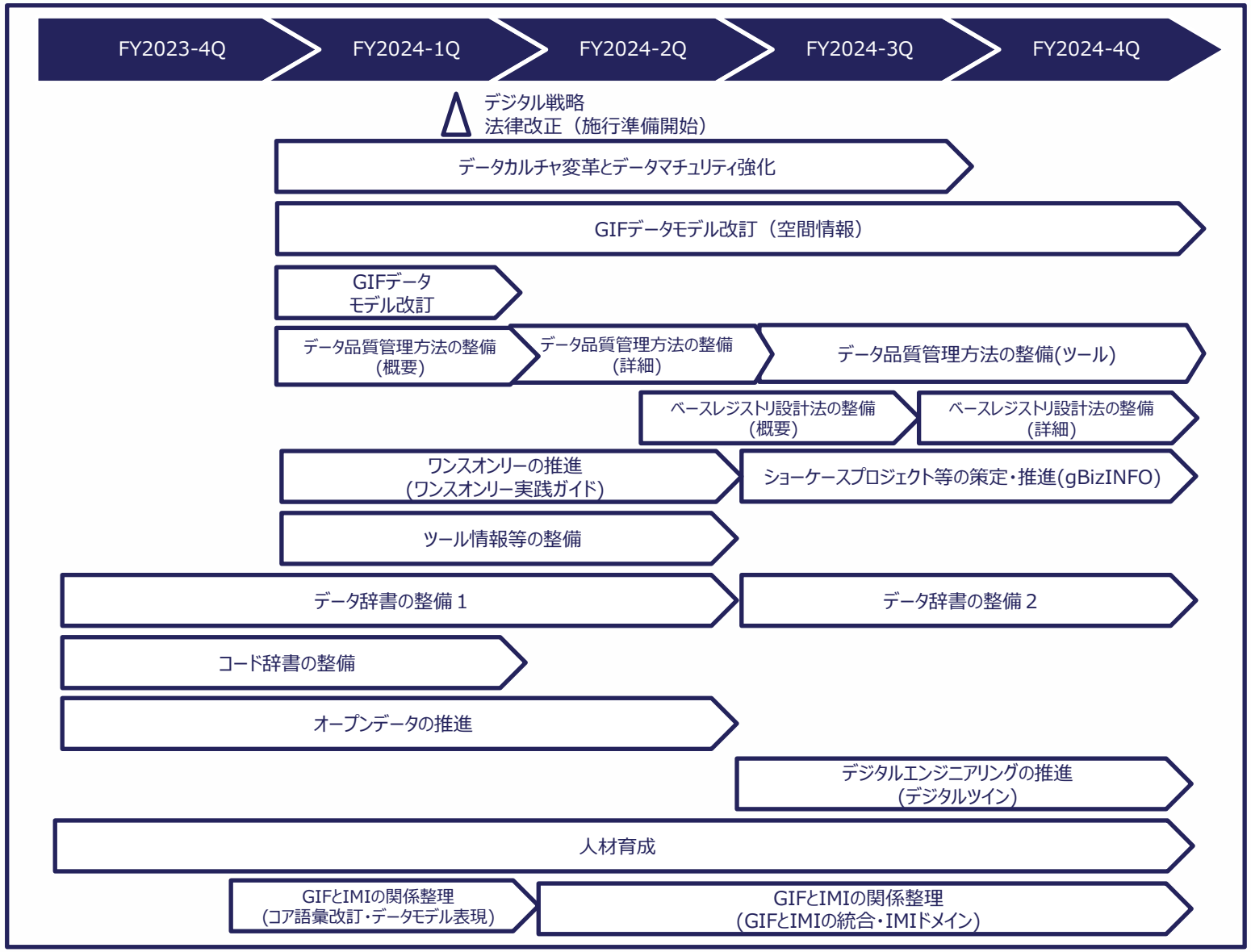
2024年度　ロードマップ
(データ相互運用性業務)

2024-03-29

IPA Better Life with IT

1．ロードマップ


FY2023-4Q
FY2024-1Q
FY2024-2Q
FY2024-3Q
FY2024-4Q
デジタル戦略
法律改正（施行準備開始）
データカルチャ変革とデータマチュリティ強化
GIFデータモデル改訂（空間情報）
GIFデータ
モデル改訂
データ品質管理方法の整備
(概要)
データ品質管理方法の整備
(詳細)
データ品質管理方法の整備(ツール)
ベースレジストリ設計法の整備
(概要)
ベースレジストリ設計法の整備
(詳細)
ワンスオンリーの推進
(ワンスオンリー実践ガイド)
ショーケースプロジェクト等の策定・推進(gBizINFO)
ツール情報等の整備
データ辞書の整備１
データ辞書の整備２
コード辞書の整備
オープンデータの推進
デジタルエンジニアリングの推進
(デジタルツイン)
人材育成
GIFとIMIの関係整理
(コア語彙改訂・データモデル表現)
GIFとIMIの関係整理
(GIFとIMIの統合・IMIドメイン)
アクションアイテム

2. 各アクションアイテムの詳細

1. データカルチャ変革とデータマチュリティ強化
2. GIFデータモデルの改訂（1.修正）
3. GIFデータモデルの改訂（2.位置情報表記）
4. GIFデータモデルの改訂（3.IMIとの整合）
5. データ品質の向上
6. ベースレジストリでのGIF活用
7. ワンスオンリーの推進
8. ショーケースプロジェクト等の策定・推進
9. ツールの整備
10. データ辞書の整備
11. データ人材の育成
12. デジタルエンジニアリングの推進
13. オープンデータの推進
14. IMI

2-1. データカルチャ変革とデータマチュリティ強化

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - データの重要性について社会全体で理解が深まっていない。そのため、基盤整備に対する推進力が働かない。それどころか、投資削減など逆行した動きになっている。
     - 先進国ではデジタル基盤整備に目途が立ってきたので、データマチュリティの強化が行われている。
   - 課題
     - 経営層に対する啓発資料が少なく、経営層がAIやデータ利用など可視化しやすい部分に投資を集中させている。
     - データマチュリティに関するフレームワークが国内に存在しない。
   - 方針と取り組み
     - 経営層に向けたデータマチュリティやGIF、データ基盤に関する普及資料を作成し、カルチャーを変えていく。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - 経営層がデータの価値を理解して、基盤整備に投資するようになることを目指す。
   - 成果
     - データカルチャ啓発資料、データマチュリティガイドの作成
     - デジタルガバナンスコード等での活用案作成
     - GIFやデジタル基盤普及資料
3. スケジュール
   - 2024年1Q～3Qにかけ順次実施。広報は通年で継続。

データマチュリティ:データの品質や信頼性を示す言葉。データがマチュア（成熟）であるほど、それが正確で価値が高くなる。データマチュリティを高めるためには、データの品質を改善し、信頼性を確保する必要がある。

2-1. データカルチャ変革とデータマチュリティ強化

4. 対応するアクションプラン(※1)
   - なし
5. ステークホルダー
   - IPAデータチーム
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討
8. その他
   - 経営層向け講演会などでの普及活動を行う。

※1「AI時代の官民データの整備・連携に向けたアクションプラン」2023/12/20 デジタル庁

2-2. GIFデータモデルの改訂（1.修正）

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - 現在のGIFデータモデルの項目や定義に追加削除するとともに記載レベルを統一し、より使いやすくする必要がある。
     - 先進国のデータモデルも更新が図られており、インタオペラビリティをとる必要がある。
     - GIF準拠を求めているが準拠基準がなく、記述レベルが揃っていないものもある。
   - 課題
     - GIFデータモデルの準拠基準、意見受け付けやオーサライズの仕組みが整備されていないため統制が効いていない。
     - データ設計できる技術者が不足していて、スキーマ定義もできていない。
     - GIF準拠の基準が提示されていない。
     - 実務者からのフィードバックループが形成されていない。
   - 方針と取り組み
     - 現状指摘されている事項をGIFデータモデルに加筆修正する。行政、地域サービスの詳細化を図る。
     - 実装データモデルは各省から依頼のあるものについて検討を行う。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - GIFデータモデルを簡単に理解し導入できるようにする。
   - 成果
     - GIFのバージョンアップ及び運用サイクル・ルールの確立（準拠ルール、実務者フィードバック含む）
     - データモデル策定人材育成用マニュアルの整備

2-2. GIFデータモデルの改訂（1.修正）

3. 対応するアクションプラン

(1)①データ標準確保のためのGIFの見直し及びGIFの実装強化に向けた取組

i. 政府情報システムにおけるデータ標準の実装状況及び政府内におけるデータ標準・連携のニーズについて調査し、データ標準の実装を進めるに当たって障壁となっている課題を整理。

ii. 上記を踏まえ、現状のニーズに合わせたGIFの改訂を行うとともに、GIFを用いたデータ標準の実装を進めていくための普及活動として、まずは政府情報システムの調達時の要件定義における推奨事項を明確化すること等を検討する。

iii. その上で、利用者からの意見を踏まえ、継続的にアップデートを行うとともに、GIFの実装状況を継続的に確認できる体制を整備することを検討する。

iv. また、データモデルの作成によるデータ標準化のニーズが高い準公共分野（教育、防災等）においては、随時、実装データモデルの拡充を行うとともに、実装データモデルの普及を進める。

v. 上記の取組を通じ、データ標準の一定の普及が進んだ場合には、更なる普及のため、GIFのうち必要な領域を原則とすることも視野に入れて検討を行う。

4. ステークホルダー

- IPA、デジタル庁データマネジメント班

5. スケジュール

- 2024年1Qにデータモデル修正を実施。

6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造

- 内製

7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画

- 2週毎のGIF定例会議で確認
- タスク管理ツールの導入を検討

2-3. GIFデータモデルの改訂（2.位置情報表記）

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - 施設、法人等の位置情報の表記が統一されていない。
     - 入口、ポリゴンなどの表記、3Dボクセルが検討されていない。
     - POIコードは提供されているが普及していない。
   - 課題
     - 位置情報を目的や必要精度に応じた表記をする必要があるが、現在は統一した表記法がない。
   - 方針と取り組み
     - PLATEU、防災マネジメント(国交省)などと連携し位置情報の表記について検討する。
     - コアデータパーツに位置情報表記を追加する。また、地域サービスデータモデルに3Dモデルを追記する。
     - コアデータパーツに合わせてGIFデータモデルの位置情報表記を修正する。
     - 空間ID（ボクセルID）、3Dデータ、時間軸、不動産ID、空中画像等の対応も検討する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - どのデータモデルを見ても、目的に合った位置情報表記が行われ、インタオペラビリティも確保されるようにする。
   - 成果
     - コアデータパーツ（位置情報表記）
     - 地域サービスデータモデルの改訂
     - POI バージョンアップ

POI:「Point of Interest（興味のある場所）」の略称。これは、地理的に特定の興味を引く場所や施設を指す。たとえば、レストラン、ホテル、公園、観光名所、銀行、病院、ガソリンスタンドなどが挙げられる。

2-3. GIFデータモデルの改訂（2.位置情報表記）

3. 対応するアクションプラン
   - なし
4. ステークホルダー
   - IPA、デジタル庁データマネジメント班
5. スケジュール
   - FY2024年に実施。期末に成果物。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-4. GIFデータモデルの改訂（3.IMIとの整合）

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - IMIを辞書にして、実装モデルとしてGIFが整備されているが、IMIが古く、一部GIFとずれている。
     - IMIを廃止しGIFだけにすると構造はシンプルになるが、実装のため簡易化しているので、本質的なデータ検討の基礎資料がなくなってしまう。
     - IMIのドメインがgoドメインのため管理が煩雑である。
   - 課題
     - IMIの位置づけが明確でないのでわかりにくい。
   - 方針と取り組み
     - GIFからのフィードバックを受けてIMIの修正を行う。
     - IMIドメインをIMI.go.jpドメインから、IMI.jpもしくはIMI.ipa.go.jpに変更する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - 辞書であるIMI、実装モデルであるGIFを明確にする。
   - 成果
     - IMIバージョンアップ
     - IMI解説ドキュメント
     - 新ドメインサイト

2-4. GIFデータモデルの改訂（3.IMIとの整合）

3. 対応するアクションプラン
   - なし
4. ステークホルダー
   - IPA、デジタル庁データマネジメント班
5. スケジュール
   - 2024年1Qに実施。期末に成果物。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-5. データ品質の向上

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - AIやデータ活用の進展からデータ品質の向上が求められている。
     - GIF「データ品質管理ガイドブック」「データ品質評価ツール」（2022年3月）、内閣府「データ連携基盤を通して提供されるデータの品質管理ガイドブック」「簡易評価ツール」（2023年9月）があるが、品質に関する意識が高まっていない。
   - 課題
     - データのライフサイクルにおける品質に関するメカニズムが理解されていない。
     - 継続してモニタリングできる簡易な仕組みがない。
   - 方針と取り組み
     - データ品質に関する広報資料を作成する。
     - 上記を実践するためのガイドと簡易ツールを作成する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - 設計工程、運用におけるデータ品質向上策を明確にする。
     - 誰でもデータ品質の自己評価をして改善できるようにする。
   - 成果
     - データ品質入門ガイド(概要版、詳細版)
     - データ品質自己診断ツール

2-5. データ品質の向上

3. 対応するアクションプラン
   - 「(1)品質が確保された活用しやすいデータを整備しオープンにする」となっているが、GIFとベースレジストリとオープンデータにのみ言及し、品質向上に向けた具体的アクションなし
4. ステークホルダー
   - IPA、デジタル庁データマネジメント班
5. スケジュール
   - 2024年1Q～2Qでガイド作成。3Q～4Qでツール作成し、期末に成果物。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-6. ベースレジストリでのGIF活用

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - GIFとベースレジストリの実装が異なるものがある。
     - 今後のベースレジストリ設計（拡充）に向けたガイドなどがない。
   - 課題
     - ベースレジストリとGIFが異なる構造であると、データ再利用時にデータ変換が必要になる。
     - 設計方針がないとベースレジストリを各省に円滑に展開できない。
   - 方針と取り組み
     - 試行中のベースレジストリとGIFデータモデルの整合性を図る。
     - ベースレジストリ整備ガイドを作成する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - 各分野のベースレジストリ整備を加速する。
     - ベースレジストリを活用しやすくする。
   - 成果
     - GIFバージョンアップ
     - ベースレジストリ整備ガイド(概要版、詳細版)

2-6. ベースレジストリでのGIF活用

3. 対応するアクションプラン

(1)②ベース・レジストリの整備

i. ベース・レジストリのうち、法人・不動産登記情報のデータベース、住所・所在地情報関係のデータベースを注力領域として、整備を進める。

ii. 法人・不動産登記情報については、年内に、整備するデータの項目や整備に関する工程表を策定する。

iii. 併せて、法人・不動産登記情報に関して、データを提供するための制度的な整理や、法人基本情報に係る変更の届出の効率化に向けた制度的な検討を行い、必要な制度的措置がある場合には、2024 年（令和６年）の通常国会において必要な法案の提出を検討する。

iv. 法人・不動産登記情報関係や住所・所在地関係のデータベースを含め、ベース・レジストリに関する整備及びその利用を促進するための改善を総合的かつ計画的に実施するために、各省庁と協力し、ベース・レジストリの整備に関する計画を作成し、整備するデータ項目やデータを提供する対象範囲、整備スケジュール、ベース・レジストリの整備にあたって国立印刷局及びIPAが果たすべき役割等を定める。

v. 上記計画に基づき、法人・不動産登記情報のデータベースと住所・所在地関係のデータベース（まずは「町字」）については、早ければ2025年度（令和７年度）からデータの提供を開始することを目指す。

4. ステークホルダー

- IPA、デジタル庁データマネジメント班

5. スケジュール

- 2024年3Q～4Qに実施。期末に成果物。

6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造

- 内製

7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画

- 2週毎のGIF定例会議で確認
- タスク管理ツールの導入を検討

2-7. ワンスオンリーの推進

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - デジタル手続法が2019年に制定され、GIFデータモデルもあるが、本格的なワンスオンリー手続きが導入されていない。
     - 欧州は、2023年末に全域でワンスオンリーシステムを稼働している。
   - 課題
     - データ標準とワンスオンリーがイメージできず、導入できない。
   - 方針と取り組み
     - ワンスオンリーガイドの策定を行い、経済効果も含め広報を行う。
     - gBizInfoへの実装を支援する。（次期gBizInfoでの証明情報標準化支援）
     - 民間に向けてワンスオンリー手続きの啓発を行い、ワンスオンリーに備えたシステムのGIF対応を推進する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - 政府や民間でのワンスオンリー実現をする。
   - 成果
     - ワンスオンリー実践ガイド

2-7. ワンスオンリーの推進

3. 対応するアクションプラン
   「(1)②ベース・レジストリの整備」があるがワンスオンリーに関する具体的アクションはなし。
4. ステークホルダー
   - IPAデータチーム
5. スケジュール
   - 2024年1Q～2Qに実施。期末に成果物。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-8. ショーケースプロジェクト等の策定・推進

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - データ標準などを使ったモデルケースが不足している。
   - 課題
     - 実現した事例がないので、意思決定者が、データ標準や基盤整備に積極的にならない。
   - 方針と取り組み
     - スマートシティ、教育、防災等、データ標準に取り組みたいユーザーを支援する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - 政府や民間での事例の整備や政府標準の検討等を実施する。
   - 成果
     - スマートシティ、教育、防災等のドメインのデータモデル・ガイド・政府標準等

2-8. ショーケースプロジェクト等の策定・推進

3. 対応するアクションプラン
   なし
4. ステークホルダー
   - IPAデータチーム
5. スケジュール
   - 2024年3Q～4Qに実施。期末に成果物。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-9. ツールの整備

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - IMIツールなどのデータ変換ツールがあるが、何処にあるかわからない。メンテナンスもされていない。
     - OSS等、海外の有用なツールを含め何処に何のツールがあるのかわからない。
   - 課題
     - 日本にOSS情報を集約したサイトがない。
     - ツールの全体像が見えないので、コネクタなど特定ツールのみ着目され、他の有用なツールが導入されない。
   - 方針と取り組み
     - IPAで整備するOSS情報サイト（3月予定）のうちデータ関連ツールを解説する。
     - IMIツールの見直しを行い、必要な場合改修する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - データ環境を容易に構築できるようにツール情報の整備をする。
   - 成果
     - OSS情報サイト
     - IMIツールバージョンアップ

2-9. ツールの整備

3. 対応するアクションプラン
   - なし
4. ステークホルダー
   - IPAデータチーム
5. スケジュール
   - 2023年4Qに汎用OSSサイト公開予定。2024年1Q～2Qにデータ関連ツールを順次追加。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-10. データ辞書の整備

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - AIやデータ活用が盛んになり、データの品質とともにデータ辞書が必要とされている。
     - データモデルは整備されているが、データ項目の意味の定義まではしていない。
     - 海外はオントロジーを使った管理を推進している。
   - 課題
     - 日本にデータ辞書やコード一覧がない。
     - 意味の違いにより、データ集約が正しく行われない恐れがある。
   - 方針と取り組み
     - 第一段階として、GIFコアデータモデルの用語を法令用語をベースに整理し、国際的なデータモデルとの整合性確保を図る。
     - 第二段階として、オントロジー整備に着手する。
     - また、コードや統制語彙の一覧を作成する。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - データを正しく扱えるようにするための意味的基盤を整備する。
   - 成果
     - データの簡易辞書
     - 簡易なオントロジー
     - コード、統制語彙一覧

2-10. データ辞書の整備

3. 対応するアクションプラン
   - なし
4. ステークホルダー
   - IPAデータチーム
5. スケジュール
   - 2024年2Qにデータ簡易辞書とマッピングを公開。2024年4Qにオントロジの簡易システムを公開。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-11. データ人材の育成

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - データ人材が圧倒的に不足している。特にアーキテクトや設計者が不足している。
     - データ人材を育成するためのコースウェアがない。
   - 課題
     - 中核的なデータ人材も不足しているため政策推進も困難になっている。国際的なギャップが大きく、世界に取り残されている。
   - 方針と取り組み
     - IPAの「まなびDX」等にスキル標準に従った教材を集積し、合わせて、事例やIT関連イベント情報の収集を行う。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - 知識を伝えるコースウェア、経験を伝える事例、コミュニティを形成するIT系イベント情報の集約を行い、総合的に人材を育成する。
   - 成果
     - 教材
     - 事例DB（IPAデジタルトランスフォーメーション部門が整備予定）
     - イベント情報集約サイト（IPAデジタルトランスフォーメーション部門が整備）

2-11. データ人材の育成

3. 対応するアクションプラン

(3)② デジタル人材の育成

i. 全ての国民が、それぞれのライフステージに応じて必要となるICTスキルを習得する環境を整備するとともに、社会のそれぞれの立場で求められる人材の確保・育成を図ることにより、目指すべきデジタル社会の着実な実現を図る。

4. ステークホルダー
   - IPA、デジタル庁データマネジメント班
5. スケジュール
   - 2023年4Qに汎用OSSサイト公開予定。2024年1Qにデータ関連ツールを順次追加。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-12. デジタルエンジニアリングの推進

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - デジタルツインやメタバースにより、画像・音声・ビデオ等の数値や文字以外のデータ、センサーからの時系列データなどのリアルタイムデータ、CADデータ、3Dスキャンデータ等のエンジニアリングデータを統合して扱う方法論の検討が進んでいない。
   - 課題
     - センサーや製造データ等、日本の強みの情報であるが、その強みを活かしていない。
   - 方針と取り組み
     - 情報収集を行い、対応できる準備をしておく。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - デジタルエンジニアリングに必要なデータに関する情報収集を行う。
   - 成果
     - ブログ記事
     - エンジニアリングデータを扱う際の方法論などをまとめる
     - デジタルツインに関する検討資料

2-12. デジタルエンジニアリングの推進

3. 対応するアクションプラン
   - なし
4. ステークホルダー
   - IPAデータチーム
5. スケジュール
   - 2024年3Q,4Qで実施。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-13. オープンデータの推進

1. プロジェクト概要
   - 現状
     - データの目的外利用の思想から抜け切れず、オープンデータの推進が停滞している。そのため、日本の国際ランキングが急落している。
     - 海外では、オープン・バイ・デフォルトが定着しており、データ共有の在り方が議論されている。また、データの管理にはDCATが使われている。
   - 課題
     - 日本最大のデータオーナーである政府のオープン化が進まないので、データ活用が進まない。
     - オープンデータがPDFであったり最新性が不足しているなど品質的な問題がある。
   - 方針と取り組み
     - オープンデータへの取り組み促進のための情報発信を行う。
     - DCATの推進啓発を行う。
2. 目標と成果物
   - 目標
     - オープンデータが質、量ともに充実し社会活動をしやすい環境を作る。
   - 成果
     - オープンデータ啓発資料の作成

2-13. オープンデータの推進

3. 対応するアクションプラン
   - (1)③生成AIの技術進展等を踏まえたオープンデータ等の取組強化

   i. 行政保有データのうちAI学習のニーズがあるデータについて、これらをAI学習容易な形に変換する実証を行う。
   ii. AI開発者向けのコミュニケーション窓口（相談対応・ニーズ把握）を整備し、学習用としてニーズの高いデータを特定できる環境を整備する。
   iii. 中長期的に、コミュニケーション窓口を通じてニーズがあると把握されたデータについて、重点分野として、AI学習容易な形への変換及びオープンデータ化が進むよう仕組みを構築する。
   iv. iii のデータも含め、オープンデータの検索性向上の観点から、e-govデータポータル等の充実を図る。
   v. 他方、総務省・国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）において、AI学習用に良質な日本語データの整備を進めているところ、このようなデータについては、犯罪巧妙化の防止等の観点から、適切なアクセスコントロールの検討を進める。
   vi. 政府としての生成AIの活用を推進するため、行政分野における生成AI活用のための実証環境を整備し、技術検討を進める。

4. ステークホルダー
   - IPAデータチーム
5. スケジュール
   - 2024年1Qに啓発資料を作り順次追加。
6. リソース計画、予算、プロジェクトチーム構造
   - 内製
7. リスク管理、品質計画、コミュニケーション計画
   - 2週毎のGIF定例会議で確認
   - タスク管理ツールの導入を検討

2-14. GIFとIMIの関係整理

データモデルに関する状況の概要(日本)

- GIF(政府相互運用性フレームワーク)
  - 政府情報システム・標準ガイドライン群で、各機関への情報提供に位置づけられる「データを中核とし、インタオペラビリティを重視した参照フレームワーク」。
  - サービスの相互運用性(Interoperability) 向上を図ることを目指す。
  - GIFデータモデルとして、社会に共通的なコアのデータモデル、データパーツを定義し、そのコアなモデルをもとに業務で利用する実装データモデルを提供。
- IMI（情報共有基盤）
  - 文字や用語を共通化し、情報の共有や活用を円滑に行うための基盤。
    - 人名等で用いられる約6万文字の漢字を整備し、国際標準化を実施（民間移行済み)
    - 氏名、住所、組織等、社会活動で使用される中核的な用語の集合としてコア語彙のデータモデルを提供

詳細に定義されたIMIは、一部の専門家しか活用が困難なため、IMIを辞書として実装するためのGIFを整備し展開

GIFとIMIの関係整理
(1)コア語彙の改訂

1．現状

コア語彙では要素名に日本語を使用しており、今後の国際化等の観点からGIFと同じく英語(英文字)への変更が求められている。

2．課題

コア語彙における要素名の英語化が必要。

3. 対応方針

WGにてコア語彙の要素名を再検討。

4. 目標と成果物

要素名を英語化したコア語彙の改訂

コア語彙
#name "住所型"
"住所を表現するためのクラス用語"
#name@en "Address"
#description@en "A class term to express an address."
class ic:住所型 {@ic:事物型} ;

コア語彙米国英語変換表
(schema.orgをベースに検討し公開済み)
住所型 → PostalAddress

GIF
PD:Address

NIEM
nc:AddressType

…

要素名を再検討しコア語彙を改訂

コア語彙（要素名にAddressを採用した場合)
#name "Address"
#name@ja “住所型“
"住所を表現するためのクラス用語"
#name@en "Address“
#description@en "A class term to express an address."
class ic:Address {@ic:Thing} ;

GIFとIMIの関係整理
(2)データモデル表現の対応

1. 現状

IMIの技術でGIFのデータモデルを表現できないものがある。

2. 課題

GIFにある「複数項目の中のいずれか一つが必須」という定義がIMI語彙記法で記述できないことへの対応が必要。

3. 対応方針

WGにてIMI語彙記法の改訂もしくはGIFの改訂についての方針を検討し、その方針に沿った対応を実施

4. 目標と成果物

IMI語彙記法もしくはGIFの改訂

5. スケジュール

WGにて対応方針の検討　2024.3～2024.1Q

必要に応じIMI語彙記法もしくはGIFの改訂を実施　2024.1Q

1.2. 施設連絡先

「連絡先」のデータモデルを拡張して施設連絡先のデータモデルを作成しています。連絡先名称が必須項目となっている他、いずれかの手段で施設に連絡を取ることを可能にするため、連絡先電話番号、連絡先内線番号、連絡先メールアドレス、連絡先FormURLのいずれか１つ以上が必須項目となっています。、

施設連絡先のデータモデルの項目は表2の通りです。英語名や記入例などを含む詳細については、別添の「438_コアデータモデル_DMD.xlsx」を参照してください。

表2 施設連絡先データモデルの項目一覧

必須項目	項目名	説明
必	連絡先名称	連絡先名称
必*1	連絡先電話番号	電話番号、携帯電話番号
必*1	連絡先内線番号	内線番号
必*1	連絡先メールアドレス	連絡先メールアドレス
必*1	連絡先FormURL	連絡先がWebFormの場合のURL
	連絡先備考（その他、SNSなど）	SNSなどの連絡手段がある場合に記入
	郵便番号	郵便番号
	連絡先住所	連絡先住所の情報

*1:いずれか一つ以上の項目が必須

GIF データモデル
施設連絡先

GIFとIMIの関係整理
(3)GIFとIMIの統合

1.現状

GIFとIMIのコア語彙に類似する定義があり、利用者の混乱が生じている。

ex) GIFには”法人”というコアデータモデルがあり、IMIには“法人型”という語彙がある。

2.課題

GIFとIMIの関係性の明確化と統合が必要。

3.対応方針

IMIがGIFを支える技術(辞書)としての位置付けであることを技術的にも明確化するために必要な改訂を双方に実施する。

4.目標と成果物

IMI・GIFの改訂

5.スケジュール

1． 最終統合方針の検討、方針に沿った改訂の実施　　2024.1Q

WGにおける検討を実施し、委員会にて最終確認を行い、改訂を実施

GIFとIMIの関係整理
(3)GIFとIMIの統合(統合案)

- コア語彙をラベル(要素)として辞書を整備する
  - IMIとGIFの関係性：意味同士の紐づけ
    - 辞書のラベルを、GIFの用語と結び付けることで関係性を明確にする

【要素】 PostalAdress

【意味】
意味ID　　：PostalAdress0001
意味　　：住所を表現するための
　　クラス用語
意味の出典：IMI(ic:住所型)

【同義】

【類義】 registeredDomicile0001(ic:本籍)、birthPla

【関連】 postalCode0001(ic:郵便番号)、postalAddr

GIFの用語

pd:住所

マッピング

意味のマッピングによって
・IMIの住所型
・GIFの住所
の意味同士が結び付く

  - GIFとIMIの役割：コア語彙は、辞書の要素として扱う
    - データモデルは、GIFのデータモデル
    - 意味と関連の情報は、IMIのコア語彙

GIFとIMIの関係整理
(4)IMIドメイン

IPA

1. 現状

IMIサイトについて、ドメインやツールにおける主管・役割分担が整理できていない。

2. 課題

1. METIから引き取ったIMIツールをデジタル庁側でGIFツールとして管理・公開するのか、もしくはIMIとしてIPAで行うのかを検討する必要がある。(データ人材評価ツール、データ品質評価ツール、GeoJSON変換ツール（mojxml2geojson）、IMIコンポーネントツール、GIF Dataverse展開ソリューション等)
2. 独立行政法人が保有できる”go”ドメインは1つまでという制限により、IPAはドメインオーナーとなれずデジタル庁がオーナーになっている。

3. 対応方針

IMIサイトの役割分担やサイトのドメイン名の再検討を実施し、検討結果に合わせた実装を行う。

4. 目標と成果物

1. サイトの再構築の実施

5. スケジュール

1. ドメインの主管とドメイン名、役割分担の再検討　2024.2Qまで
2. 検討結果に基づいたサイトの再構築　　2024.3Q

IPA